

450

仕命; 彼等移民官及び通弁に對し、ミジウロ
 本入収容所に於て hearing を開行せしむに
 して日本人の出頭を命ぜらるゝ事實を捜査す
 ると共に、一移民及び通弁が擧げた實際
 を其儘 本人に對し、どんな風にやうに
 平に失礼と相當突進しんでの調査振りをりつた、
 だが本人は相手と云ふやうな訳にはゆかず、
 調査官の遠慮をうけて貰ひ度いと懇々と
 か差ししかへんといふ事である。種々調査の
 結果は右移民官二名及び通弁は罷免さ
 れ、次で Supervisor のカーア長官も其職
 を免じらるゝに至つた。爾來前さうの如く、同収容
 所の空氣は遠く要改され、同胞に對する待
 遇は寛大となり従つてカード陣の如きも、大との
 親しみも以て日本人に接するに至つた。云々。

軍病院五ヶ月

八月十一日。

本日、Internment Camp Hospital へ入院。
 昭和十八年一月六日、退院。此の間日記を
 怠つた。昨日決て決むべく余りにも衰弱し全
 この勇氣が失はつたのである。約五ヶ月間の病院
 生活と接し下し記憶をたゞして、前ねの順序
 を記す事とする。

八月十一日入院に到る迄、約二週間といふ便

胃腸疾患
 入院

451.

二
週
間
便
秘

掘りだ。胃腸のガスは停滞し更に排泄でき
ない、不快苦悶は極度に達して衰弱は日に増
す事が十分目覚め得る。食慾は全失せ、近
藤君等の好意により僅にミルクを攝取するに
過ぎないが、其れも漸く殆んど義務的に攝
取することだ。数日前病院へ出かけた灌腸
したものの思ふ様に便通が来り、やと肛門近
くに何物が軟骨の觸れるものがある、之れは半
さばる結果腸の一部が disorder したのでは
ないかと、内心不安と共に一大衝激を感じ自ら
何んとも怖ろしく成った。即ち永年の腸疾患
の結果にかゝるに捕はれる不自由な生活と餘
儀なきをきたした昨今の境遇が茲に怖ろべき疾
患を生ずるに至つたのではないかと云ふ一程の悲
哀に襲はれたのであつた。

西
野
光
作
君
の
好
意

友人諸君は非常に心配に呉れ却り入
院の上、根本的療治を勧告に止まされ、ミジ
ラ當時にも諸君から入院を忠告されてゐた事だ
らうが、病氣を知り僕は入院を欲しなかつたので
ある。然るに八月十日西野光作君は切角に
配いてくれ、僕には無断で田中トスターと交渉
の上入院手續を済し僕に翌日(十一日)持参
が来る事になってゐるから直に入院と断り、根
本的に診察して貰へて、僕にとっては感激
に堪へぬ疾を患ひ措置したのである。十一日夜、木

452

常も弁来訪、切ル入渡を勸告して呉れた、既に
西野君が其の運び出した方と云う事で深く感謝に
事でもある。

八月十一日朝、軍機架自動車到リ、友人諸君を送
られ、K区域裏側の位置の Internment camp Hospital
に運ばれ入院する事になった。真夏ではあるが此の
は朝であり暫々涼しいところであつた、K区域の鉄條網
柵に沿ひ道路と車に撞られながら、時々蜂の
声に憂鬱を感じながら、他の一同胞患者と合乗し
て兵に護もられ走り馳る。なぜか不覚の涙が
ほとばしって止り難い、名状しがたい感傷的となつて、
自分から、どうして斯んかに涙が出るのか全くわから
なかつた。友情が、今日迄自分の公私生活は、徹
頭徹尾友情によって終始して来た。友情に対する
感激と共に、久しい向の大涯の死の悲哀のいつは
らざる涙である。即ち友情を以て独り淋しいと、
いかにに制御して居て居らうかとの潜在意識の
暴露でもある。腹を腹切ギヤスの苦痛裡に感
謝の念に打たれながら病床の人になつた。

先づ患者用のパジャマと支給される着更へ、衣
服其他は、娯楽或は煙草等を除き、全部病室
外所定の場所に預けられる。

同胞中から奉仕勤務に任ずる看護人によって
灌漑が行はれた。灌漑には慣れたはゐるが、床上
で他人に施されたのは是れが最初だ。

453

だが此の切角の灌腸は一向効果なく、相変
らず不快とギヤスの苦痛は減すまい。米に軍
部監督の収容所病院ではあるが、この灌腸と
しては、何物か食料品の空罐にゴムのパイプ
を通じ、そこから灌腸にむきいふ不気極の
ものゝは、聊か驚かした。

病院の医師監督の下に施された灌腸でも
二週間余の便秘が解消できず、一事は僕
に取っては重大事項だ。入院の翌日即ち十二
日は朝から Mineral oil を飲み、且つ肛門から
も注入して、攻め立てようだった。結晶の石の様な
成つての排泄物は容易くは排泄出来まい。
処に田中ドクターの手によって指を以て掻き出
す手段をとった。結晶した便は大腸に頑強に
停滞しているから、指で掻き立てようとするは、反動に
押し込む事になる、此時の苦痛は名状し難い
大苦悶、懸念は殆んど死絶するかと思はれる。
事を立てて呻った、ドクターは看護人に、僕を
脱へさせ約五分乃至十分程の、色々と試みた
が遂に断念していった。こんな苦しさでも
何んか、もっと容易い方法がありさうかも知れな
いのだが、当向医でかい限り僕の肝腎腸疾
患に対する最も進歩した手術は研究されて
ないであらう。僕はかおの不安な懸念
を吐き出した。十三日再び灌腸をやった。馬

454

床での排泄努力は一通りでは無い、硬化した便は肛門と擦り出せず退きも無い。堪え難い腹痛だ、殆んど呼吸もつかまらなくなり、指の爪は蒼白く変じて黒くなる。僕の苦肉に心配を司る人へ一患者に医師を呼ぶ依頼で、これは一刻も猶豫でしかないと思ったから、肛門も腸も張り裂けよとばかり力の限り、ふん張った。すると大きな塊が飛び出した。今日の腹痛は遂に無くなった、不思議な事には、指の爪が元の色に返り紅味を帯びて見えた、向も無く二度目の便塊が復又肛門と閉じ排泄は止まった。今度は前、やうにふん張る気力なく腹痛も差支でないので、一度引き上げると、仕束の後、ふと腰板を見ると、驚く、長さ約二吋半巾二吋位の饅頭状の塊もある、怖ろしい偉大な大便が乗ってゐるのだ。苦みの余り腰を上げてふん張った為の飛び出る際、腰板の上に飛び乗ったのである、扁平のハート型を、草色にも鼠色にも見えた。

ベッドに戻って、暫く休んでゐると、又排便を催したので、再び便所へ駆け込むと依然として排泄には停滞してゐる。更にふん張って見ると漸く塊が出た。後で見ると前念の腰板に同様の大きさが乗ってゐる。さうかに腹痛は抹消し、一時に気分が勝れ久し振りの安寧を得たのである。此に

455

あつて後、心配いふ腹の工合には別々これと云ふ異状はよく察する程のももあつた。裏に指頭にて觸れた軟骨と思つた物は、この便塊なつた事が想像される。だが夜に到つて、ギアスは相変らず停滞、苦痛は殆んど連日連夜に亘つて絶へない、便通は下剤と一日二回宛服用すから、毎日あるものの、未だ常で自動的に催した事は一回してない。進んで試みようである。

ギアスの為の胃腸の苦痛は、毎夜消燈頃から始まり堪え難いものがある、食欲は殆んどなくミルクとマッレニ或は果物汁位が漸く攝取し得るので昼飯も晩飯も殆んど手をつけない。此状態は入院以来、十月末頃まで続いた。

衰弱は加はる一方で、骨體重百斤と起へない。しばしば中庭で運動を取るのであるが腹痛起つて椅子にも掛けて居られぬか常態だ。自ら悲観せざるを得ない、医師の手当と云へば、便通剤のみであつて、これと言ふ治療手段は更に受けない。約一ヶ月後にクミンキの如きものが食ねる事へられた。

患者の一人である市陸の朝岡虎教使は僕が腹痛ある度に居々背後からの手壓を施して之れ、いろいろと付抱いて、僕のため心配に尽れるのであつた。同虎教使は真言宗の壮年僧侶であるが、嘗て胃潰瘍と切腹に加へて、

朝岡
虎
教
使

456

列に新呼吸をとりつた処、患部が破裂し手術の已む
おまに到り療養専念中の折りを、インターと成つたので、
食餌が最も重大視され、自米軍病院にか卷中あつてら
う。現在では殆ど常態に戻つたが、尚ほ又光線の結果
果未だ患部に僅かの傷が残つて居り、且つ食餌の
関係上、外積を退院は許可されず。今師は他の
患者に對し灌腸やら便を取らるゝに、看護人と掛け
専ら奉仕し、彼の病院内では頗る大切な富家として、
医師及び患者から慕はれてゐる。

九月二日井らのワバトお身井上参ハ老盲腸の疑を以
て入院全三十日退院に。

九月七日洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
九月七日洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
九月七日洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
九月七日洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
九月七日洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
九月七日洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
九月七日洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
九月七日洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
九月七日洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
九月七日洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。

僕の病状も其後漸々良くなるものではあるが、漸々
順調に向ひ、ギヤスの苦痛は失せ、食慾は増え、
快方の一途を辿つてゐる。血色も好く、體
重もまた増へた事を察せらるゝに到つた。たい便通の順
調を博せ、たいけの事である。病院に正月も近へ
昭和十八年一月六日漸々退院の運びとなり、
Dahackに搭乗車に送られ戻つたのである。だが
未だ食事に就いては最も注意を要する。肉類は

井上参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
洞上日参ハ老盲腸の疑を以て入院全三十日退院に。
一月六日退院

457

飯の如くキーン及びターナーの白味及びラム以外は何も
お食べられない。

Internment Camp Hospitalは各々監禁所の外柵
内に所在し、鉄条網と鉄格子、武装のガードは
見張塔に警戒して、僕が入院当初頃は病室の
入口と裏廊下出入口との二個あり、夜中に夜リガード
が警戒に回るが、数日後には入口のガードは取り去ら
れ、一室のみに成った。然るに復又十日頃になると、
前金庫のガードを附するに到り而も徹夜三十分間置き、
病室を往復するが、因り士官が卒とす、恰も軍
士が如き歩調で巡り来るので、其都度患者は
いたたまれず物音に目覚め安眠が取れない。

病院の
食事

かゝるに或るガード輩は深夜大声とて古辛辛
續けるので神経過敏の諸君は全く病気に上りて苦
められ、不平の聲は旺んに起つて居る。病院の
消燈は午後九時、食事は "Regular" と呼ぶものと
"Soft" と呼ぶ二種類があり、僕は言ふまでもなく
Softと嗜んでいるが、恰度鳥のスリ餅の様な
ものである。朝飯は鶏卵、マフィン、トースト及びバター、
及び Orange juice 或は Grape juice 等と始め
フルーツ等が添ひヨーヨーが付けられる。僕が多年
構つてゐる朝飯では、肉足であるが、トビ料理
場から運ばれて、病室附ケフケンで、同胞インテリ
の看護婦仕立によつて、一々膳に盛られて上、各患
者が自ら之れを受取り、おがき病室に運び、食卓

458

すゝ為の、食物は凡て冷めきつて暖い物は常て口に
とれぬ、殊に Coffee 或はマフィンの冷たいのには
聊か平口するのである。昼食及び夕食は(ソフトの分)
Sweet Potatoes, ポテト, Pea, Turnip, 人参, Mustard-
green 及び Limabeans 等八種の品目と殆ど限られ、
右の内、三種乃至四種が一時に、交替に一食毎に
皿に盛られて来る、凡て鳥のスリ餌の、
潰したもので、但し此等の野菜類はポインとしたかの
中で、一向味をつけてぬふいから不味いとは甚しい。

何れにも僅かの限られた種類の副食が、一律の
料理法で添へられるのだから、倒ね 横は片着
け難い。たゞに肉の何オンスかと grind して付けた
事もあり、又奥の一片も皿の片隅に 姿を顯す時
もある。最初はその喰ひ上りもある料理場から運搬さ
れて来るのか、其の南病院所属の Ketchen が設備
あり、同胞の専任チーフのキルフィクツとされ、約一ブラツク
位の距離から運ばれる筈に思つた。自來水が 汚
或は雑炊等が南 断ちと添へられ、米飯に食へる。
患者諸君を喜ばすに至つた。ソフトは毎食皿が附せらる。

病室は、一般インテニー及び一部米軍人の診察所
に續く同じ棟にあり、約四棟の直ぐの目下一棟が
けが使用され、~~四~~バラツク連であり、一棟即ち one ward
には、約廿九から三十のベッドが用意されて居る。肺
結核患者は front の Sund Porch が臨時に充て
られ、而して、四名の患者が収容されて居る。

459

患者は全部、バジャイル着更へさせられるが、毎
晩はシーツからpillow case, bath towel 及び
タオル等一切、新しいものに取替へられ、毎土曜
日は、シーツ、枕カバー、タオル等バケが取り替へられる。

バクト及び器具等に至っては、何等不足はないと
云って好からう。暖温の設備とあって、スチームはふん
だんに通つて居る。監督軍医は少佐であり、其の
下は大尉、中尉等の軍医が仕ゐるが、その責任者
としては、田中博士が院長格で、其の助手として布哇
の末村博士が居る。だが日本人医師の重なる
物は Ward の整理とか、診療報告書或は患者病
状日誌等の整理から、清掃の監督であつて、投薬
或は注射等に至つては、軍医の命令に基き、その指導
に従つてゐるのである。

知
人

え

以上二名の知人等は、恰も軍医の代言者でもあるかの
如く、或は彼等の意見と視つてゐるが、患者に對
する態度は、頗る辛酷と極り患者は文字通りの
インテニーとして苦勞を受けてゐる。これは彼等医師の
個性に由る結果であつて、大い考慮の余地があり、改
善は必須だと断言できる。

一男困る事は、病室として類作すべき事は、所謂
病人だ。即ち入院日数が長くあり、別之れと
いふ種の病作であつて、退院にも差支へをなさず
手合は。彼等は食慾も可、運動も障害なく、従つて
毎日、食つては居る、起居に堪へてゐる。口は達者だ。

460

小
病
人
の
病
室
に
入
る。

直接監督の仕に就つて、邦人医師は午の五時頃にも
おると皆引き上げて了ふ。其後の矢張りさとならな
く、彼等は病室向を歩み廻り、夕飯が
済むかすまぬに中庭に遊び出し、はしゃぎまわつて何処
が病室かといふは、さういふからん。床に納まつてゐる患者は
ほんとの病人數名に過ぎない。又病室に納まつた
後、大勢の若くは數個の病室を越へて先の
方へ、無遠慮に會話と交へ、寧ろ傍若無人で
ゐる。殊に其の半は、或は六才近頃の一患者は、腰を
打つてゐて、電氣療法の何れかをやつてゐたのが、
聴くに堪へない。又或は夜は調子に乗つて、
うめをいひ、患者達の拍子に、愈々得意になつて、
全く病院の何んぞかといふを忘れ、續けざまに歌
ひ出すものだ。

佛
教
信
者

最も遺憾なことは、佛敎者の患者が、僕が入院
中、送られて来た所謂敎使であるものは、約八名程
に及ぶが、其中で二を除いては、全く軍持さうな
手合ばかりだ。其れが即ち全部ハワイからの坊主
ばかりで、彼等の言動は倒れ、衆生を濟度する佛
弟子の其れとは思はんまい。こんな生臭坊主に連
累して、誤敎を押しつけられてゐる布哇の信徒
等は、気の毒なものである。此等の敎使と稱する
職掌坊主は、蓋し、敎使の名目とまんまと得、移
民地を巧みにくぐり、佛と稱して無智な善男善女を、餌

として、金儲けの終始にまつ者である事は疑いなし。
僕は物口後、此実に就き政府及び関係当事
者に対し、大々的に警告を發すると共に、一般に
呼び掛ける意図である。

一併海外へ派遣する南教使や牧師の人選
は、其意のみにて輕率に取扱へてはならぬ。
教養や人格の点からは、單にお経數卷の
讀みのだけ、つまり坊主供が狭い同胞間の
愛を以てしむてやってくるの、政府が旅券を發給
するのは考へるべき。而も是等の坊主連が口許を
校の先生と成つて、二世を教へるに到つては、もつとの
外に。

石鐘が十一月の初旬からだと思ふ、各 Area を通じての
佛教聯盟と稱するものが、毎土曜日に二三名の各 Area
代表と見舞に集まる事になり、その都度、いろいろの坊
主がやってくるが入院者見舞もたい加減のもので、
中には坊主患者の bed に泊つて、單に坐蒲突ひに
時間と費す奴も居る。但し同聯盟は毎週志願
が雑誌 Life 及び Pick と一冊宛病室に寄
贈してゐるのは感心だ。キリスト教側は毎土曜日に
代表者が見舞に来るが、此の方は無事で何れも寄
贈しない。

要するにキリスト教も佛教も、イタニーと成つては
金匱底古垂れて、精神的の活用はできないうらしい。
彼等が信從に基き身を以ての、宗教的具現に

462

同胞 internees の慰安救済には、絶好の機会
 となる。拘らず、相変わらず各牢内Vが持ち廻りで
 食堂等で挨拶したり、親戚にお茶を12じ、自己満
 腹に陥っているのは滑稽極まりなく嘆息すべきだ。

① 僕より一ヶ月も先に入院した、ワバトの十野竜市
 君は十二月末入院した。入院後十二月二日、temporary
 visiting の名の下で Wyoming Hill Hart Mountain に
 おける Resettlement の家族にゆく事と許可され、荷
 物全部を携帯、十二月二日中キャンプに出立、七日
 念地に到着した。この事である。たゞ"temporary visiting"
 なるものは蓋し、是れが最初だろう。

② 十二月廿五日 秋山君、僕の病床に来て来た。今回
 秋山君の命に接し、今晚出立、予定だと挨拶を述べ
 ず、即ち今日深夜中キャンプに出立、加川 Tule
 Lake の Relocation center における家族の許に
 送られた。因に秋山君の令息は目下米口陸軍に服
 務中である。尚ほ今君と同時に合計七名のインター
 が今春解放となり、其々の家族のもとに護送された。

是れより先き キャンプ内に復す release 及び
 Parole の事が程頃、事実上実現されるに至ったと
 あり話題の中心となつてゐると聞く。即ち多数の
 internees 諸君中、hearing の請願を華府政府に
 提出したものであるが、右は中央からの意向に基いてあ
 って、米口政府は最初の hearing が不完全と認めたも

463

ヤン
グ
未
訪
。
ス
ペ
イ
ン
領
事

のか或は噂の存に Internee family center の創
設に従い、其に一家族を纏めて収容する前に、
再調査の上、お来るにけなくを Relocation center
へ収容しなす政府の意圖はとて擧はれてる。
申請に対する米政府の回答は hearing を受理
した場合に其の手續に必要の意滞項目を
通知して来る。但し hearing 容れ難い云々
真向から拒絶の通知を受ける者もある。

十一月一日スペイン領事(在ニューオーリンズ市)、
國務省代表ヤング等がキャンプを訪問し、124人
代表者諸君と会見した際、Internee family
center は以下建設中である、一月末乃至二月中
は、家族との unite は可能であるが、場所は Texas
州の南部との発表を避けてゐる。即ち二回
交換船の周には其の出帆期日は不明である、中南
米同胞を始め、口譯商人、知人及び老人等が優先
権を占つて豫定される旨を明したと発表された。

其後 Camp 監督部向から、一般 internees に対し
印刷登録書と配布し、各自の署名を求めた。其の
内容は、Internee family center に家族と併い
居て同棲の意欲を希望するか、unite を望んでゐる
relocation における家族員の姓名年齢等及び一
人毎に center に移動した場合は、妻子と異、市民
権なき場合には、Internee と同様の status を
以て遇せらる。但し市民は其の権利を失はず、從

464

来と異なり、帰国を申請したり等々である。

右に就き、妻子とも *internees* 同様に見做される事は、夫とて思ひつゝ云々観望の下に、署名に躊躇した者が相違あると云いてゐる。だが、口實有官吏の説明によれば、*internees* の status と成つても何等特別の拘束を受るものではない、若し右新 center に不満を感じ、ものの relocation に依りてれば、目下にて何時にでも帰国する事が出来る。

久我死

十一月一日入院中の久我君は（千葉特人在ロンドン市市ケル経管者六十二歳？）午後四時四十分、高血圧の故で死去、今老は二回目の入院で、静養を要する患者であり既に release の通知に接してゐたのだが、毎分勝れる儘に静養を怠り、高血圧者としては相違無理にも思はれざる勤労を怠つてゐた。日平りの交換船を待つてゐたのだが、毎の至りである。臨終に於て友人一人、病床に見護りてゐる。監禁所病院にて、林は長逝したのであつた。前夜十一時頃から急に悪化し、爾、意識を失ひ危篤に陥つたのであるが、幸は日曜と云ふので、一右の医師も護つて失ひない、中村看護士が脈搏博を取つた時既に事にしてゐた。午後八時頃かと思ふ、葬儀社からの自動車により、一名の軍医が附添ひ、晩林の松岡と結んで、tail light の紅も落し送られてゐた。出立にて車を見送つた同胞是者は僅かに三名に過ぎない、他は red にもぐつて

465

関也のもの。存であつた。テキサス州車地で奉還に
附し、二日 K area で葬儀がなされ、患者一同
は其々葬儀場方面に向ひ、黙禱一分間による
故人の冥福を祈つたのである。

増田 布陸の英華家 増田吉策老 (広島縣人七十一歳)
死 吉策老
去 老
布陸の英華家 増田吉策老 (広島縣人七十一歳)
は肝臓癌、愈々悪化し、十二月十六日午後九時十五分
眠るが如く長逝。危篤に陥るや、全老 barracks から毎
夜、特別看護人として、一名の同胞が交替に看護に努
めてゐた。幸ひ親戚から、臨終には其の節にあらうもの、
増田老の死も亦寂寥と極めた悲壮なものであつた。

全老は布陸に於ける成印者の一人として知られ大
先輩であつた。最近では hetine に子息に就て遺
つてゐると傳へられる。十七日 6 エリアで葬儀執り、
患者は久我老全老、一分間、黙禱と捧げた。

僕が退院當時は、危険悪状にある患者は二名で
一名は Panama 在病當時から入院療養中の儘
捕はれ、大陸に移動せられ續き入院療養中の
Panama 理髮業者 上田幸光である、全老は其の
心臓が悪化し、医師の診により倒床回復の
見込みはないと云ふ。他は Portland 出身の
和歌山縣人 宮向茂光に、全老は胃腸で通
師は同患者の妻の如く儘にいてゐる。宮向老は
ホ市鉄道構内に工友として勤務中であつたので、
internes 中の友人とてよく、豊川林に孤獨の。

466

身であるが、放巻より、大おう吹きで鼻の口を断たす、
病院中の鼻ツマミと成てなる。氣つてゐる人である。

先にも要む、当病院は直接疾患に対する治療。
は全くと、單に通に華とか Vitamine 等は強壯剤と
施し、静養する外なものゝないから、普通病院
で一ヶ月治療の場合、おヶ月と要する程に思はれる。
外科手術は施されるから盲腸の如きは、手つたり早
りされる。

僕は入院中、レントゲン、又光線等胃腸及び
肺臓等前ね約六回に亘って(胃腸五回、肺臓一回)
撮つたが、異常なしとの事である。血液二回、尿液
二回、大便一回等の検査があり、食慾を増進させ
強壯を促す注射三回に及んだ。又光線は所謂
Station Hospital (約二哩、距離にあり、當所内
に於ける軍病病院診療所) 内で施されるのだが、
同所の係長及び軍医等は、悉く毎日日本人 internes
に接する、極めて丁寧に何等の差別も、僕は
寧ろ異様に威にん位である。又日本人 Ward に
来診する軍医等も、頗る懇切を極め、診療に當り
最も熱心に医師としての本分と全うしてゐる、日本人
医師が大いによぶべきであらうと痛感せざるを
得ない。

患者の大多數は老年者で、即ち海外生活に多年慣
れ、所謂海山十年の手合がはめては、従つて、我が
僑である。医師連の引さ上げ後は看護人に向

軍医連の
日本人の
おす態度

467

ワイン
事件

は相応無理を事を要求するのだ。

僕が入院中、ワイン事件がある。其頃からCanteen
でWineを賣り出したのであるが、或る夜~~ある~~日、監督軍
医の一人がWard、附属のKitchenにあるIce boxの中に
一壇のWineを発見した、供も何れか飲用した残り
であつたので患者中に其の所有主のものとして、所有者
に就て尋ねるのであるが、誰にも白状はいない。乃ちた
は患者一同の連帯責任として、各々に打つ所罰の意
味を込めて向ふ一週間は、見舞及び其他の来訪を一
切拒否し、其旨出入口に掲示したのである。然るに
其夜勤務の爲のやって来た身看護手(ハワイ出身)
は、これを聞き、右は全人が賣らしたもので夜中の
飲み料として数日前からIce boxに納めてあるもの
だと述べ一同に白つて陳謝した事である。だが軍医
は同人の責任とせず患者にも一連の托生を強ひ、遂
に掲示通り一週間の内外交通遮断と断りした。
これは患者にとつては、甚に迷惑至極ではあるが要する
患者中の友人が其の格別を預つたが、若しは要求の
結果おかしな事になった事か、如何に分つたものであら
う。これは病病人が病院の何人であるかを無視した
單に氣樂に群起してきよめる、病院内で横着を
まの込んでゐる一例である。中には一老人患者で、心
臓が悪いのだと云ふが然るに今人は血色も好く、食慾
も相応であるが、尖熱中、帽はからか半裸体で、チ外
に赤く舌を挿し回つてゐる。病室内に於ける活動

横着
患者

468

最の最のもつた。本人の言ふには移り前のCampで
 医師から Aspirin を連続的に服せられた結果で、
 何れにも要いふはよいこと。日本人医師が そんな
 活動にはいけまい、ベッドに安静すべき最命と
 数日後に到り、舞はばかりにて身体が衰弱に來て、
 吐劑をふつふといふ、然らば是きて益ん運南せ
 といふはれり。フンフン憤慨し知能は無責任だといふ
 ぞ。其後数回の診察の結果、異状あり退院しても
 宜いと告げられり。今度は指の関節が痛むとか物
 と云ふに因喉がつかへ苦いと訴へる。其の辭僕の
 一言に打て言葉を述べたが、他の患者と訪ねては
 殆んど無盡に、お声ではあるが良く告げる。其の頭痛
 がすといふので、今度は茶とコーヒーと止められり、
 すといふ茶を禁ぜられり結果、食へず頭が痛むと、
 粧飾愛すべきを起し、まるで弁髪の様である。厄介な
 友人と謂はねはせられ、此の予会の如きは全く病
 院生活に慣れきて、Barracksの如くも極端に
 嫌つた結果、何時にも病院で舞ころんでゐる
 横着者である。

僕が入院中、我がポットランド自身者は絶大に
 好意を以て、色々に心配にて笑へり。おも湯を運んで
 笑へり。古川翁は苦心に見て鉢植を二回に亘
 り贈つてくれた。諸君からの見舞は不断に受け、同じ
 者は The Oregonian を常に見てゐる。かき添へる
 は Sunday paper と云ふが、佐田、高橋及び丹

469

お市
友人の
好意。

屏の三君は毎週雑誌LifeのいTimeを括って
見舞に交絡し贈ってくる。池田君や白田天城子
君は又雑誌やラタパエを見舞品として贈らる。木
君は何れかといふ曲に色々お礼を打考して托いたり
親切に、お市の時と少しも変らず諸君からの厚意
は決して忘る事にはならんかった。僕にとっては生涯
忘る事のできない喜びであり又感謝であって、諸
君に酬いやる事と忘るはならん。西野君が僕
の心の、お市にいつも常に良心を持ち寄りて呉れた
事は五ヶ月入院生活に特筆すべき一大感激であ
る。

僕はPortlandに諸君の内に在って生活中インター
ンになった事は非常に幸いであると断じ得る。帰国後は
お市友人のねめ一大努力奮闘にて、諸君の福利
につき全力を上げ、諸君が在米三十年の結実と無
事ならぬ御礼の力をねばならぬ。

明
治
節

十一月三日は明治節である、早起おーけに出て祖
国に向い、朝の陪の裡に皇室に對し ~~敬~~ 敬意、敬口を
服、皇口を勝を祈った。嘉院中、僕一人
である。今皇口の連勝一大善展と目の前に、日本
に民に、お市らの胸は血潮に沸き、大きな感激
に勃然として、民族的意識が湧きと共に、更に
今次日米戦争の意義大おを感ずるのである。
戦争意識を欠く internees 中の多数は尊起

470

すべきた。

感謝祭

十一月廿六日、病院 Thanksgiving Day を迎へた。
マサチューセッツ州海岸に上陸した、彼の Pilgrims の
Pilgrimage の生存者達が、~~1620~~ 1621 年十二月十三日と
期し、其の日を祭りと定め、豊富なる糧食の天恵を
神に謝する事と始めると謂ふのである。當日は、例の
turkeys と始め、geese, ducks 等は多量の鳥類等の
山海の珍味に加ふるに、American Indians から
五匹の鹿を贈つて食卓を賑はし、男女老幼の清
教徒等がいたたか酒喫する事であると丁度物
語られて居る。今更茲に感謝祭の理に因縁を
説くまでもふいかな、とも節も米口人にとって一年中の
嬉しい行事の一つである。本年は戦争のため卓上に
添ふべき恒例の menu は少なからず欠乏を告げ
てゐるが、多分は傳へてゐるが、果して何の程度か
判らん。今自由と奪はん監禁所に intern
と成り候も病院に、此の日を迎ふる事は徒に
感慨に堪へない。ヤトル在住中は、此日は必
ず天野君(フヤソン 西奥館主)宅に招待され
る常例となつて、僕は米米時子の奥女主人に
代するが毎年此の例でもあつた。晩餐はきつと
今娘の Piano と聴くのも例であつた。市に帰つ
ては、例年本曾方で turkey dinner とよばれる事
になつてゐて、他からの招待は謝絶すること、自分
も本曾一家でも定めてゐた。親しい者の集りて

471

好きを市馳走を、にんまい食やお市のThanksgiving Dayは追憶のたおもてである。今年はRelocation Centerで洋二やMrs. KisoはTurkeyを食ったろうが洋二の大好物Legoが手に入ったかどうか心配にねる。

次の日、病院では患者一同にターミネーターを振ったのだが其れは下層社会には倒産に似てるのできらい市馳走だ、但し僕等"soft"組には、一摘み程の碎いたステーキの肉とクランベリーが余分に付いただけの事である。

日本兵捕虜

△十一月十二日朝一時、日本海軍の捕虜兵五十二名がE Akeに収容された。内五名はアリゾナ群島近海に於て破損船をめぐり捕はれた者、又一部はカモア島北方エリス島近辺において一船舶にて巡船中撃沈されし等しを捕虜となり、其他は其航空母艦が爆沈の際、捕へられたと傳へらる。同時に坂巻少尉も其後等と同じ区域に収容された。

日本捕虜兵は、頗る頑強で容易に物に屈せず自己の主張を何処までも突っ張って、米兵と手古摺らてゐると云ふ。規則は厳格だが、帝日本軍人として徹底的に武人的態度をとりがへす程の事は無いと謂ふ。無論日本人 Interneesとの往復及び会話は厳禁ではあるが、newsはinternee中より一紙が毎日出されて、報道する

472

事になって居る。

日兵は軍部、尋常に向ては、断乎として答へない
ので、監督武官タン中佐は宮川君を同伴通弁と
して、待遇上に必要ありと説明し種々質問する処あった
結果、捕虜中の最高級は、某艦の機関長と答
へ判明したと傳へる(十一月十八日質問)。尚ほ
今回の日捕虜兵等は、護送途中船中にて死
亡した遺骨約六名を携へて米が、十二月インター
佛教聯盟の好意に基き観音堂と設け、戦友の
慰霊祭とりつゝ。

又十二月中、米軍武官との意気疎通を欠き、誤
解の決果。日兵は頗る強硬な態度の上で軍
部側は周章狼狽に、遂に護衛兵を増強し、
大部隊で鉄條網外側を取りまき、警固を厳
かつた。其のあはて方は寧ろ滑稽だったといふ。
傳ふる処によれば、一少年兵は鉄條網柱に登
り、機関銃の向兵に向ひ、胸を張り「カア射て」と
叫んだと云へ謂はれてゐるが果して事實なりや判明
しない、だが彼等は之をも厭する処なく態度毅然
たる事實は否定出来ぬ。

其の一月に到り、日兵の一部將卒供せて約十
六名は、華府政府の命により加利方面各地へと
約廿日間に亘り見物させた。同胞インターは
日兵に對し大なる同情を惹き、自後は捕虜たる
名詞を使用せぬ事を中念せ、物品の寄贈等に

473

多く考慮と拂つてゐる。或日の早、軍部から
我が兵に對し、冬物靴下を贈り給ふと、其の
大半は古物と誤解したもので、彼等は皆
此れが愛物と拒否し、突つ返してやつた。

同胞は各エリアから集つた之に代る靴下を中
島を通じて寄贈した。たゞ各人は、日本兵諸君が
監禁生活に慣れ、尊き武人の地位を忘れず
軍を尊んでやまぬ。

ク
リ
ス
マ
ス

⑤ Christmasも病院で迎へた。僕等にとっては
感謝祭もクリスマスも、別の大いなる意義を感じない
た。市馳走と食ふ事だけに、此日に対する特
別の感興を抱くのである。監禁の境遇でヌー
ドンナーは期待せしむべきでもない。病院では
七面鳥に色々の市馳走が出て患者諸君は至つて
満足の態だつた。日本人キリスト同盟 (Internees)
から、病室内に、松の枝を以て クリスマストリーに
代へ、商會から飾物さへした。又同會から患
者一同に shaving cream と一個宛寄贈され
たが、これは甚だ役に立つ。Netchenからは cake
が贈られ、又 K-1 (同区域からの患者は三名) 一団
から、僕等三名に對し、Cookies, Orange, Apple 及
び Grapes 等を入れた袋を gift して、一個宛贈つ
て来いと共に大形 cake ~~が~~ 鄭重に寄贈さ
れた。一同に分け如費と共に喜んで受け取つた。
他の Area から来た患者達の内には、K-1 の好意に

474

しまかへ、何等の奇贈がふいって聊か不満の意も漏らす者らつのは、平日もめぐり子供らに、中々リ気分とも云へる。

迎春

昭和十一年元旦と云ふ。戦争勃発の十六年から足掛け三年が数へらる。早朝床を離れ、洗面後、ポーチにて四方拝を独り行ひ、皇室の尊栄、出征軍人の武運長久と祈り、黙想之れと久うした。東亞の盟主大日本帝国の一大発展は、愈々その基礎を固め、ますます隆々として進捗しつつある。此時、茲に戦勝の新春と云ふ、僕も敵国に在りて、これと云ふに到つては痛快の限りと謂はねばならん。禮拝を終り、病床に床に臥し追憶するに共し、将来に想ひをめぐらせば、一刻も此處に居つてゐるに云ふ氣に云ふのだ。健康の回復に氣が合せて仕方がない。病室内と見渡せば、誰しもまだ長夜の夢をむさぼつてゐるものや、である。餅に対する希望や食卓の不平等とやめて、新春に對し一應自己反省をやつた。朝食後、午前十時頃、知人 couple の好意であらう、口取りを真似て皿にカマボコ、天ぷら、まかいのキンドン等と盛って、一同に腹を布した。僕は胃に差支つないものを一つだけ取って、他は希望者に譲つてやつたが、正月らしい気分を憐れみは嬉しい。

病状は正月に入り、愈々重なり、胃腸の苦しさは、おんど、無くなって、只腰部に、いらいの重壓を感

475

その程度だ、この重壓からの治療は多くの時日を要する筈である。

后
年
外
務
大
臣
賀
電

正月、ニース報道者は此と外相から10人
インタビューに就き日本十字社を経たの~~様~~村々年
賀の祝電と寄せた。

新年と逢ふに當り、大日本帝國外務大臣
は、国民と共に遙に慶賀の辞を諸君に呈
す。

該電文には我勝口の餘裕振りが躍如とし其の嬉し
さ平にたる。

又
電

これに對しinternesを代表し中村権五郎挨拶(新設
役員年末に送る)の名の下に次の如き又電を送
つた。

元旦早々、閣下及び故に同胞の賀電に接し、
感銘に堪へず、茲に深厚の謝意を表し併せて
閣下及び同胞に對し、迎春の祝詞を捧ぐ。

大
日
本
帝
國
軍
人
賀
状

又此にエリアに監禁の日本将兵から左の如き年頭の
挨拶を寄せて来た。

呈大日本帝國インター諸賢へ

光輝ある昭和十八年の新春と逢へらるる方
年終の皇國の大勝を祝すると共に、建誠の
知人諸賢が聖戦の尊き犠牲として、院一思の
生活を送り居らるゝ事、此に萬腔の敬意を
捧ぐると共に、心から来る御厚意に對し衷心
より感謝の念を表わすものなり。今や帝國

476

の前途洋々多事殊に新領土の開拓発展は
 豈に諸賢の双肩にあり、希くは亦自重自重
 愛の上、将来の大活躍を期せられん事を祈
 る、吾人帝曰、御軍に身を捧じて、以来今日ある
 と期に、多年修練と積々着々その実績とを
 け利に、不運不幸にも戦争半にて刀折れ
 矢盡きて遂にかゝる境地に入る、遺憾
 慚愧是に如くものあらんや、爾来固起奉
 公と期に、隠忍の生活を送りつゝあり
 西の海軍の空にかはれども心は同じ君が代つた。

未
 信

入院中、病室のやち大西昌子、本原又人諸君
 からの手紙に接し、この返答はせうちかつ、新中華
 軌道のはいかにもつらかつからである。又立ちあが
 ら、船中船上用の Cap 14 金 2500 と送り送
 った、竹園光に委任し、~~返答~~ 禮状とせし。
 何れも、妻の病室の芳志は心に銘じてぬ。
 僕の病気に就いては、Center の友人向に相率電
 意の如く付へられてゐるものと思つてぬ。シヤトル
 戦場金お金の金息が雨合に来た次で、僕と
 病院に訪ひ面会を求めんが軍部の許可しから
 ちかつ。

六日退院後、二日目に病室から Christmas
 card が届いた。又一月十九日、洋二から年賀状
 が来り、別戦に快方を祈る欲いの特がある。

477

パに言つて貰ひいと英文で認めてらつた。嬉しい
書信がある。

約五ヶ月に亘る病院生活の後、再びBarbours
へ戻つて来た時の気持は、帰省した如き気分で寧ろ
嬉しい。軍兵十字自動車で送られ、門前で下車
し柵内に入る。お着る同じ老女も会い社を巡
へる。#1906お会に入り一同に迎へられ謝意を
述ぶ。異村の感じは、会内のextensionを
設け、電燈が増へ頗る明るい。色々の装刻
造の美しいものが、各自の柵に飾られてゐる。牛だ。

木株や根でinternee諸君が盛んに、思ひ思ひの
品を製作し始めたのは入院中耳に、本曾えのい
や山ドラから、ステッキを一本宛に贈られたが、
こんなには流行してゐると思はれた。Internee
生活の不自由とboredomといふ打ち勝つのは
良い思ひ着きだ。推奨にやまの。

#4, 5, 7と各バウワル直に挨拶にせかけ
布襪を巡へる。

会中はK.P.と共に暮らすに、善支のやりとり
を貰ふ。ドラの注意に基きやつてゐる。
再びmess Hallの諸君が親切に呉れるので
萬々お都会に。勿論多岐の諸君の間に、食料
を撮るのだから不便も從つて供ふ事もある。
或る日の女さ(一月廿日)、朝食はfried potatoesに
ブレイド供もブレイドもジャムを無、巴むを得ず

478

コークヒート突っ込んで食べた、ミルクは無い。昼食には
 "うどん"一杯で片着けた、ミルクは無くブレッドは
 あり、バターとジャムも無い。夕飯も口にしない
 ものなど、僅にミルクを与へられたのでブレッドと混ぜ
 僅少のオールドオテートと共に辛うじて食事を済ませた。
 たしか斯うな事は、めつてには無い筈だから敢て氣に
 かける必要はない。戦時中の倭軍兵隊でこの限り、
 隠忍に専ら健康の回復に力めなくてはならぬ。
 時々腹具合が悪いが我慢に耐え、間もなく良
 く成るのは嬉しい。

点呼
改善

入院中、点呼の方法が簡単化され改善と
 見られる。午前七時頃の如く各負傷者の所属
 バラツク毎に一列となり、並ぶ時は要りはないが
 今では、南方側で名を呼び上げるのを、点呼係兵
 が名簿により人員を数へたけで併も終った組から
 逐次解散といふ、とても簡便である。米軍寄と
 しては、各々に対する取扱の上近米の傑作だ。

一月七日、Repatriationに関する一片の書面
 が授けられ、各々署名を求められた。其の内容は、
 日本政府から貴族の送還方を要請した
 有米キャンプ係官より通達も受けたが果に
 帰国を希望するや否や、但し該兵の送還
 は米政府の発意ではない事。

大要以上の如きものである。僕は署名之れに署名し

479

854

は
物
口
改
者
府
要
求
ス
ト
。

"yes"と告げし。右通知に接した者は、全キャンプ
中極めて少数であつて、各がアルゴン及びワバト組に
あつては、三河、大塚、井上、岩田(井上)、西野、南、小山、
加藤、南、木曾、中道、(井上)、境野、上村、石塚
(井上)、竹岡、富廣、田中、立石、松村、Sacramento(井上)、
等であつて、以上の中、帰口希望者は、松浦、中道及び
僕の三名だけである。

右は第二回船に打するリストであつて、他のバラック
に於ける人質等により考案特合すると、日米政府今回の
要求リスト人名は、大多数、日米人関係をもつてな
つてゐると傳へられる。何れ右のリストより補欠が決
定された後、第二回交換船の出来が実現されると
見、余り遠き先きでは無いと観る。

ス
ペ
イン
大
使
館
回
答

一月廿日、在華村スペイン大使館から書信に
接し、其の依り、ある十二月廿日貴館書入を、
貴館の姓名は Priority Listにあるから帰口可
能であるが、交換船 ghispholm 号は一千三百名以
上に乗せらるゝは出来ず、加之に多数の病
人及び高齢者があるとして、全船を該船に
収容不可である、何れ帰口通知あり次第、本港
地へ出費すべきものであるから、其のつもりで心構
へられたい。此の間に交換船向の liaison が
あつて巧に外交的解決に経始してゐる。

或る方面からの推察によると、第二回交換船の
出来は本年二月中旬らしいとの事だ、然し就中

480

事項だけに、総て“豫定”の文字は通用いふ、昨今で
あるから、之れも五里霧中だ。

物五ヶ月間の病院生活にか、退院して、記憶と出
り出し、日誌と決めるにあり。自らで書いたことは、
文字を忘れたつて一半だ。ミゾフ以来、日々文字に接
するが、甚だ稀んで、殊に中キヤンパへ移動此の方は、
日誌の雑誌及びお多は悉く英文ばかりふのか、大まか
裸だと新じ得る。

とまれ五ヶ月の養生で、大分健康を回復し得る
程にふつては、切に友人の賜に信じて、茲に改めて
感謝す。特に近藤君が Fort Missoula からS/S
續き、好意を以て何れ暮れと心配して呉れたのは
別にいさて有り難い。

尚又前述した様に、諸君から惠贈の雑誌及び
新聞は、入院中における無聊を慰むと共に、僕の
信条として自ら断つておかつた讀書によ、頭腦の働
きと輕續する唯一の手段として実りいそつた精神的
保健方法に資する事頗大であり、贈られる毎に文
字通り、記すから廣告に到る迄精讀したのである。
感謝の堪へず深く銘記する次第である。

- ◎ 春陽さす松林わね返り来ぬ。
- ◎ たらちねの母にひかれて春の野に草摘む
じとく友垣になる。
- ◎ 三才子かへり見すれば友どちのたうとき
心われ忘れぬや。

近藤君の
意